

《キーワード》 象牙質、覆髄・裏層法、再生象牙質、再生用生体材料

《担当者名》 斎藤 隆史 松田 康裕

【概 要】

最近の Minimal intervention (最小限の侵襲によるう蝕治療)の概念の普及とともに、歯科医学における再生医学の進展が著しい。う蝕治療分野においては象牙質の再生が目標であり、「脱灰象牙質の再石灰化」及び「修復象牙質形成の誘導」の両面からのアプローチが求められている。

本科目の目標は、講義によって、象牙質再生の意義、「脱灰象牙質の再石灰化」及び「修復象牙質形成の誘導」に関する理解を深め、実習によってその基本的手技を習得することである。

【学修目標】

1. 象牙質再生の意義を説明できる。
2. 「脱灰象牙質の再石灰化」を説明できる。
3. 「修復象牙質形成の誘導」を説明できる。
4. 接着性修復材料を用いた「脱灰象牙質の再石灰化」の手技を習得する。
5. 薬剤・生体材料を用いた「修復象牙質形成の誘導」の手技を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	象牙質再生の意義		斎藤 隆史 松田 康裕
2	「脱灰象牙質の再石灰化」と「修復象牙質形成の誘導」		斎藤 隆史 松田 康裕
3	In vitro 研究の実際と用いられる分析方法		斎藤 隆史 松田 康裕
4	In vivo 研究の実際と用いられる分析方法		斎藤 隆史 松田 康裕
5	学会発表・論文作成		斎藤 隆史 松田 康裕
6	抄読会の開催		斎藤 隆史 松田 康裕
7	臨床検討会の開催		斎藤 隆史 松田 康裕
8	In vitro/in vivo 研究における接着性修復材料用いた 「脱灰象牙質の再石灰化」の実践		斎藤 隆史 松田 康裕
9	In vitro/in vivo 研究における薬剤・生体材料を用いた 「修復象牙質形成の誘導」の実践		斎藤 隆史 松田 康裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献講読をしておくこと。